

GREEN × EXPO 2027

来場者輸送実施計画の概要

2026.9.27 GREEN × EXPO協会 交通対策室

本日は各頁左上に★がついている頁を中心に
ご説明させていただきます



1. 「来場者輸送実施計画」の変遷について

0. 変遷

- 今般、2024年3月に策定した「来場者輸送基本計画」を基に、関係機関との協議等を進め、「来場者輸送実施計画」の初版、第2版を公表。更なる検討や協議・調整を進め、令和8年7月に第3版を策定
- 今後も引き続き、関係機関等との協議・調整を行いながら、本計画を更新し、安全・円滑な来場者輸送の実現に向けて準備を進める

計画	策定の趣旨
国際園芸博覧会基本計画 2023年1月 策定	・ 基本方針、開催地・会場へのアクセスの基本方針を定めたもの
来場者輸送基本計画 2024年3月 策定	・ 輸送計画の基本となる「前提条件」とそれに基づく「交通機関別の考え方」や「検討すべき対策」などを定める。【関係者との調整を行う際のベースとなる計画】
来場者輸送実施計画 初版 策定 第2版（2026年2月） 策定	・ 来場者輸送基本計画で定めた「交通機関別の考え方」を実現するための具体的な内容を定めたもの。
来場者輸送実施計画 第3版 2026年7月 策定 (随時更新予定(第4版12月目途))	・ 初版、第2版の内容から、更なる検討や関係機関協議、調整を進め、より具体的な内容を定めたもの。
2027年3月19日～9月26日 国際園芸博覧会 開催	・ 輸送対策本部による運営



2. 来場者輸送実施計画 第3版 の概要

1. 目的・2. 想定する来場者

○実施計画は、

①GREEN×EXPO 2027の来場者の安全・円滑な移動の実現

②来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した、バランスの取れた輸送アクセス体系の構築

を目的に策定する

■前提条件

開催期間

2027年3月19日（金）～9月26日（日）
192日間

開場時間（現時点での想定）

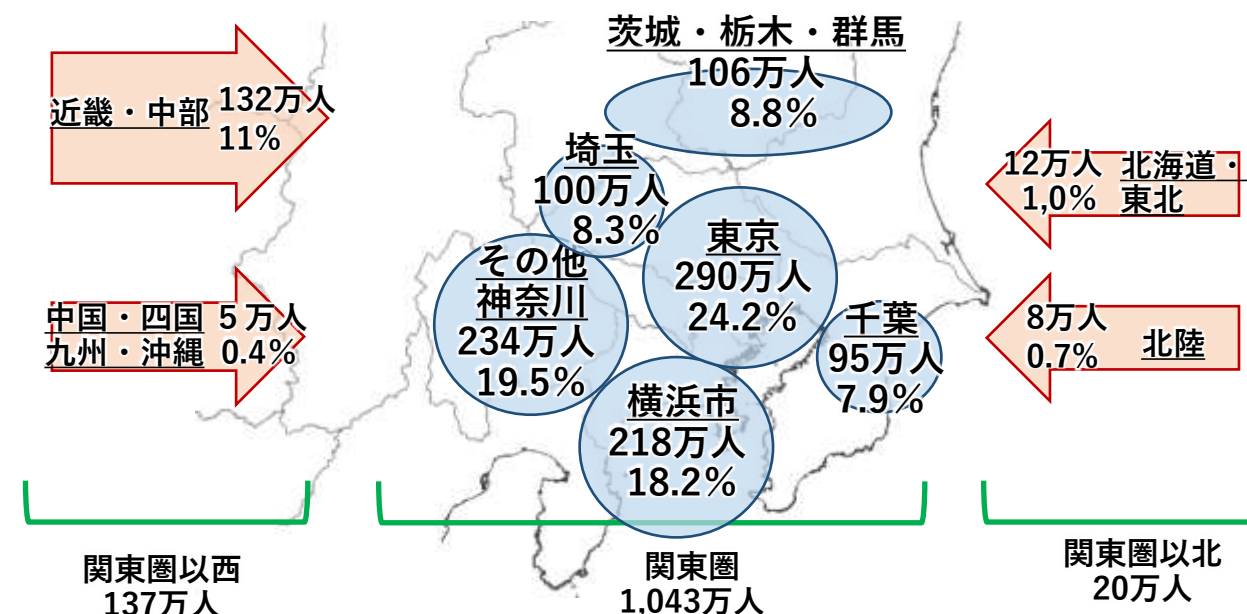
9:30～21:30

■想定する総来場者数（輸送計画）

約1,200万人

総来場者数 1,200万人

出典：国土地理院地図を引用・加工



※端数処理の関係上、合計が一致しない
(海外来場者は、関東圏内の滞在先から来場するものと想定)



2. 来場者輸送実施計画 第3版 の概要



2. 想定する来場者（交通機関別分担）

- 会期中192日を4ケースに分類し、各交通機関の輸送力、ターミナルや道路などの処理能力等の検証を実施し、必要な対策などの検討を行い、輸送能力の確保を図る
- 今後詳細な検討を進める中で、必要に応じ、交通機関別分担の数値を見直し、更新していく

分類別 交通機関別分担（4 ケース）

分類		公共交通機関	団体バス	自家用車	周辺地域からの 自転車・徒歩等	総来場者
通常期	【A日程】平日 (GWを除く夏休みまで) 80日	約18,000人/日 (36%)	約18,000人/日 (36%)	約12,000人/日 (23%)	約2,000人/日 (4%)	約50,000人/日 (100%)
	【B日程】平日 (GW及び夏休み以降) 47日	約26,000人/日 (46%)	約9,000人/日 (16%)	約18,000人/日 (32%)	約3,000人/日 (5%)	約56,000人/日 (100%)
	【C日程】土休日 (繁忙期を除く) 46日	約32,000人/日 (41%)	約20,000人/日 (25%)	約24,000人/日 (30%)	約3,000人/日 (4%)	約79,000人/日 (100%)
	【D日程】繁忙期 (GW・9月等の土休日) 19日	約44,000人/日 (42%)	約24,000人/日 (23%)	約32,000人/日 (30%)	約5,000人/日 (5%)	約105,000人/日 (100%)

※GW：4/29～5/5 ※夏休み以降：7/20以降

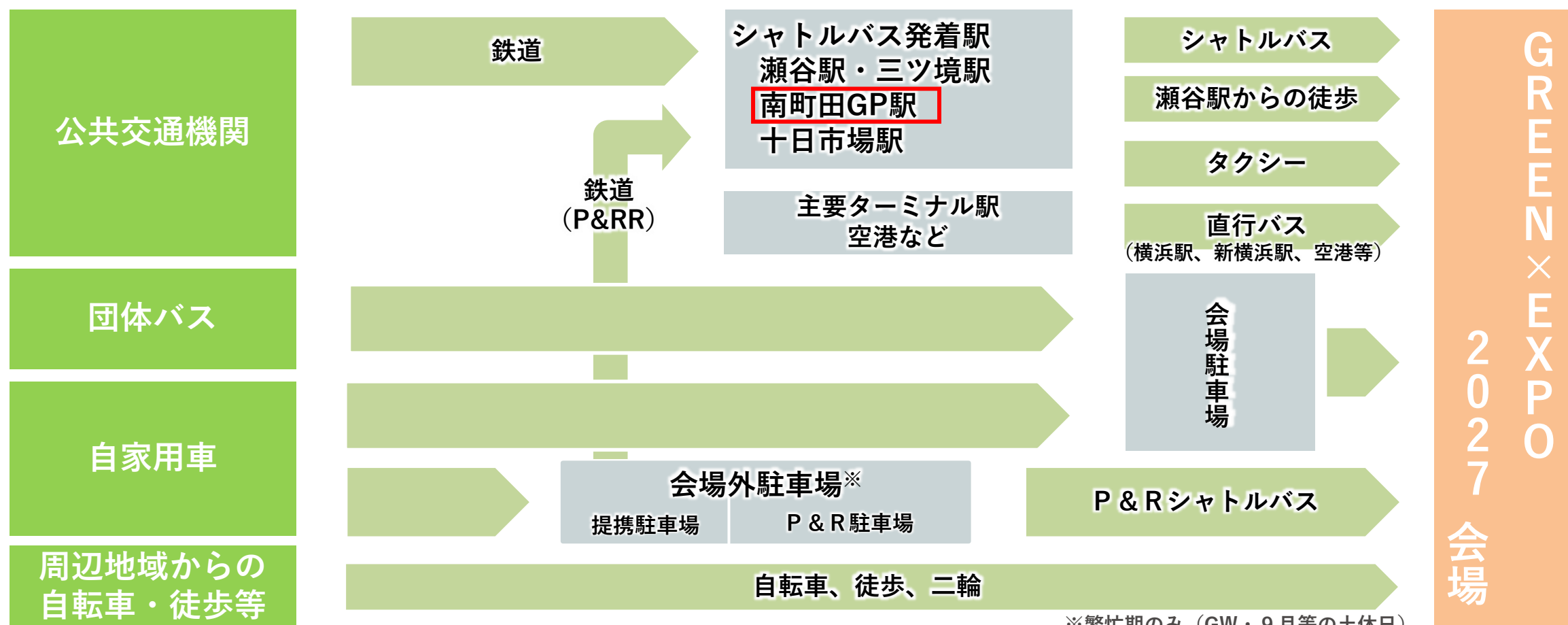
(数値は千単位で端数調整、比率と合計が一致しない場合がある)



2. 来場者輸送実施計画 第3版 の概要

2. 想定する来場者（交通機関別分担主なアクセス方法）

- 公共交通機関は会場近傍4駅からのシャトルバス来場のほか、瀬谷駅からの徒歩、タクシーや直行バスでの輸送を想定
- 繁忙期は、会場駐車場のほか、パークアンドライドや提携駐車場からのパークアンドレールライドを検討
- 周辺地域からの自転車、徒歩等での来場も想定





2. 来場者輸送実施計画 第3版 の概要

4. 公共交通機関

- 4 駅シャトルバスに事前予約制を導入する
- 通常期、繁忙期の来場者数を踏まえ、各駅の分担を想定する
- 車両については、環境に配慮したEVバス等を導入する

■各駅の来場者数（片道）の想定及びシャトルバス調達台数（日あたり）

	A日程	B日程	C日程	D日程
瀬谷駅	約5,000人	約7,000人	約9,000人	約12,000人
三ツ境駅	約3,000人	約4,000人	約4,000人	約6,000人
南町田GP駅	約6,000人	約9,000人	約11,000人	約15,000人
十日市場駅	約4,000人	約6,000人	約8,000人	約11,000人
シャトルバス 調達台数	約90台	約110台	約120台	約160台

■各駅のシャトルバス運行計画（想定）

	瀬谷駅	三ツ境駅	南町田GP駅	十日市場駅
バス数	3 バース	2 バース	4 バース	4 バース
運行本数 (1バースあたり)	約20～40本/h (6～12本/h)	約10～30本/h (3～15本/h)	約20～60本/h (5～15本/h)	約20～60本/h (5～15本/h)

※ 通常期（173日）の最小値、繁忙期（19日）の最大値を記載
運行計画は現時点の想定を記載





2. 来場者輸送実施計画 第3版 の概要

4. 公共交通機関

- 待機列の設定については、来場者以外の一般歩行者の動線や、既存の路線バス利用者などの駅利用者に十分配慮する
- 来場者誘導については、案内スタッフの配置及び案内看板の設置により円滑な誘導を行うとともに、来場者以外の一般歩行者の動線も確保する
- 車いす利用者や一般の待機列で待つことが難しい方等には、別に待機場所を設ける

■シャトルバス乗車場所、案内動線、待機スペース



▲瀬谷駅



▲三ツ境駅



▲十日市場駅



▲南町田グランベリーパーク駅

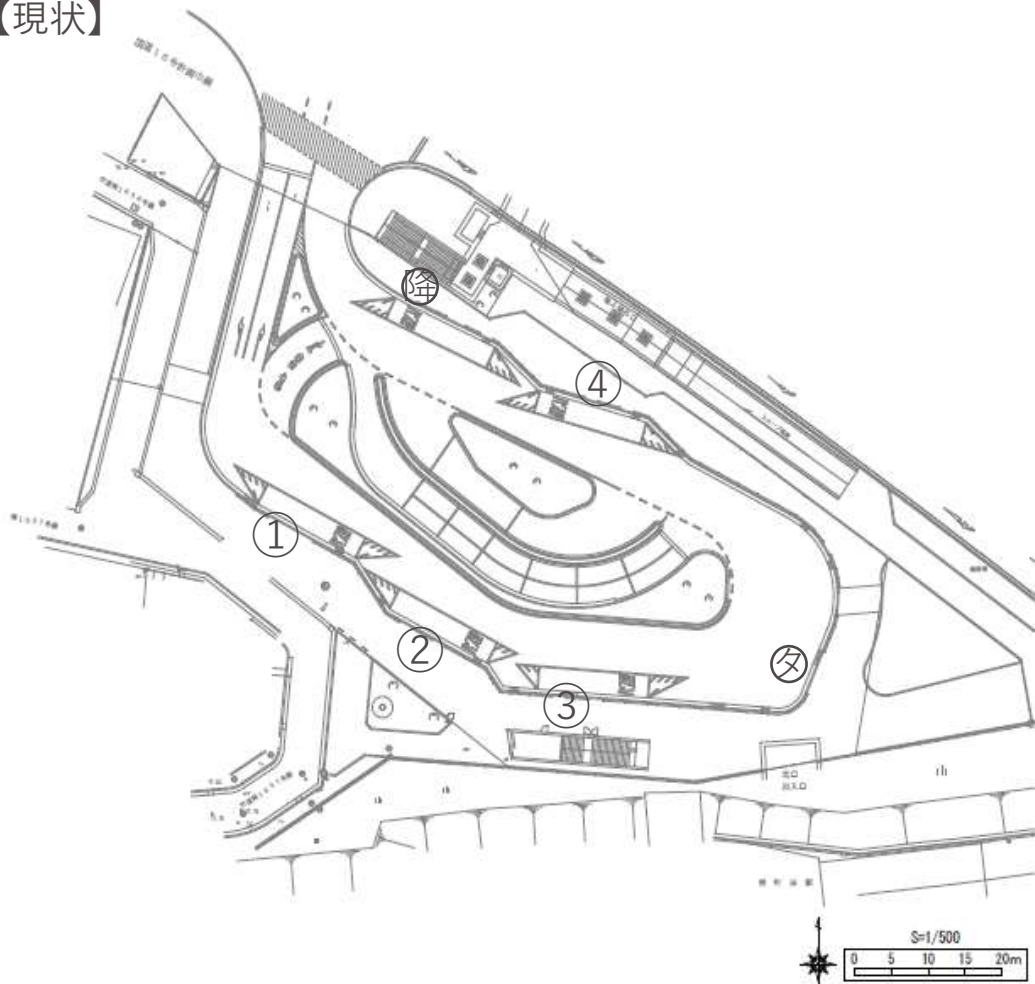


【南町田GP駅バスターミナルの運用について①】

■EXPO期間中の路線バス乗り場変更について

○現状、南町田グランベリーパーク駅北口広場は『路線（高速）バス・タクシー・一般車等』が利用

【現状】



位置	路線名	行先
①	高速バス	羽田空港、成田空港 (1～2本/h)
		富士急ハイランド・河口湖 (1本/日)
②	南02	マークスプリングス (2～3本/h)
	南03	
③	町89	町田バスセンター (1～2本/h)
④	津01	長津田駅 (1本/h)
降	降車	
タ	タクシー乗降	

関係者と協議中の事項のため、今後変更になる可能性があります。

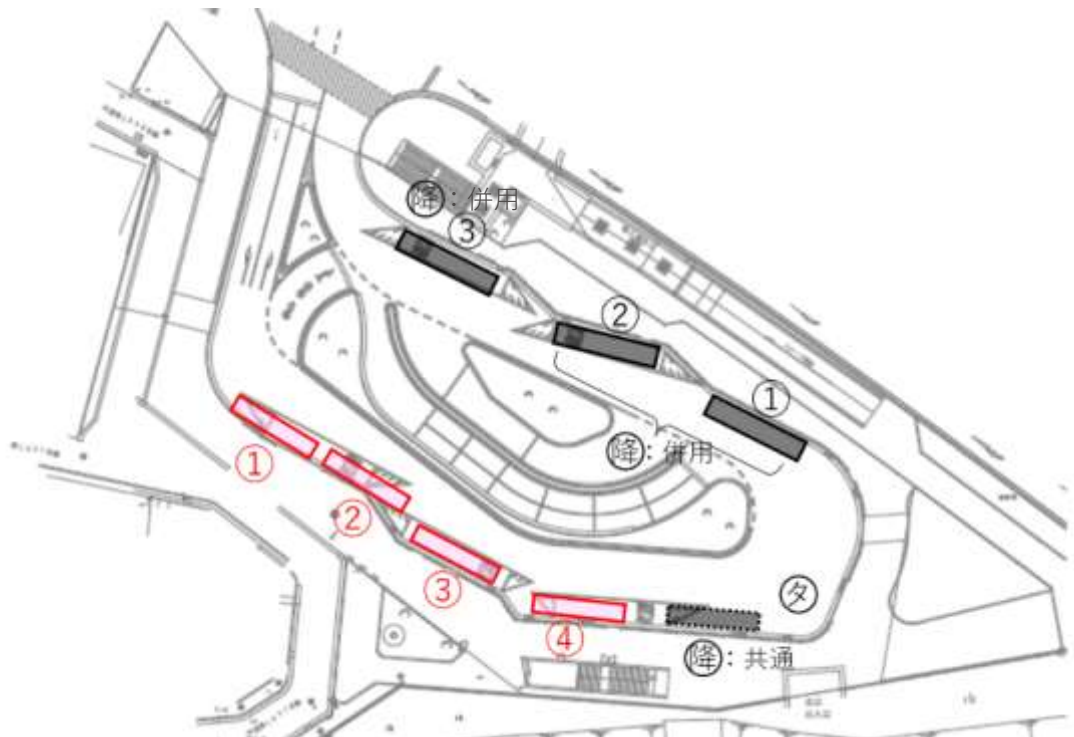


【南町田GP駅バスターミナルの運用について②】

■EXPO期間中の路線バス乗り場変更について

- 路線（高速）バス乗場を一部統合のうえ、広場北側へ移設（タクシー・一般車等是不変なし）
広場南側に新たにシャトルバス乗り場を4バース新設（共通降車バースを1箇所新設）
→ 乗り場変更に伴う横断防止柵撤去などの施設工事を実施予定
- 乗り場変更は2027年3～9月を予定。別途、案内看板設置など事前周知を予定。

【EXPO期間中（予定）】

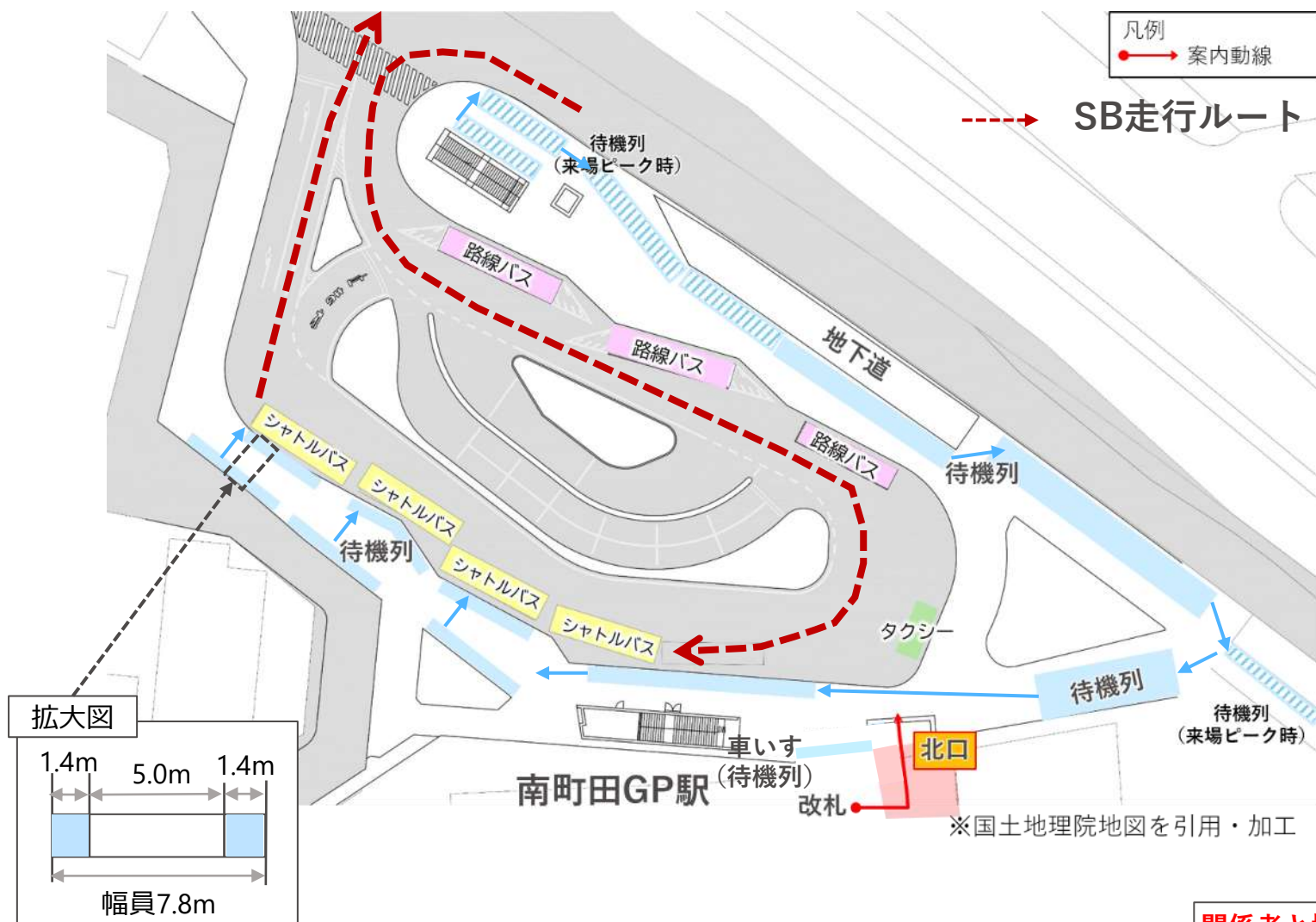


位置	路線名	行先
① 統合・移設	町89	町田バスセンター (1～2本/h)
	津01	長津田駅 (1本/h)
② 移設	南02	マークスプリングス (2～3本/h)
	南03	
③ 移設	高速バス	羽田空港、成田空港 (1～2本/h)
		富士急ハイランド・河口湖 (1本/日)
降	降車：状況に応じて空きバースを使用	
タ	タクシー乗降	



【南町田GP駅バスターミナルの運用について③】

■シャトルバス乗車場所、案内動線、待機スペース



- シャトルバス運行時間：8:30～22:30
- 繁忙期の来場者数をカバーできるよう待機列を想定（最大約1,500名）
- 案内スタッフが待機列の誘導を行い、一般の歩行者の通路を確保
- 待機列はベルトパーテーションで整理

(イメージ)



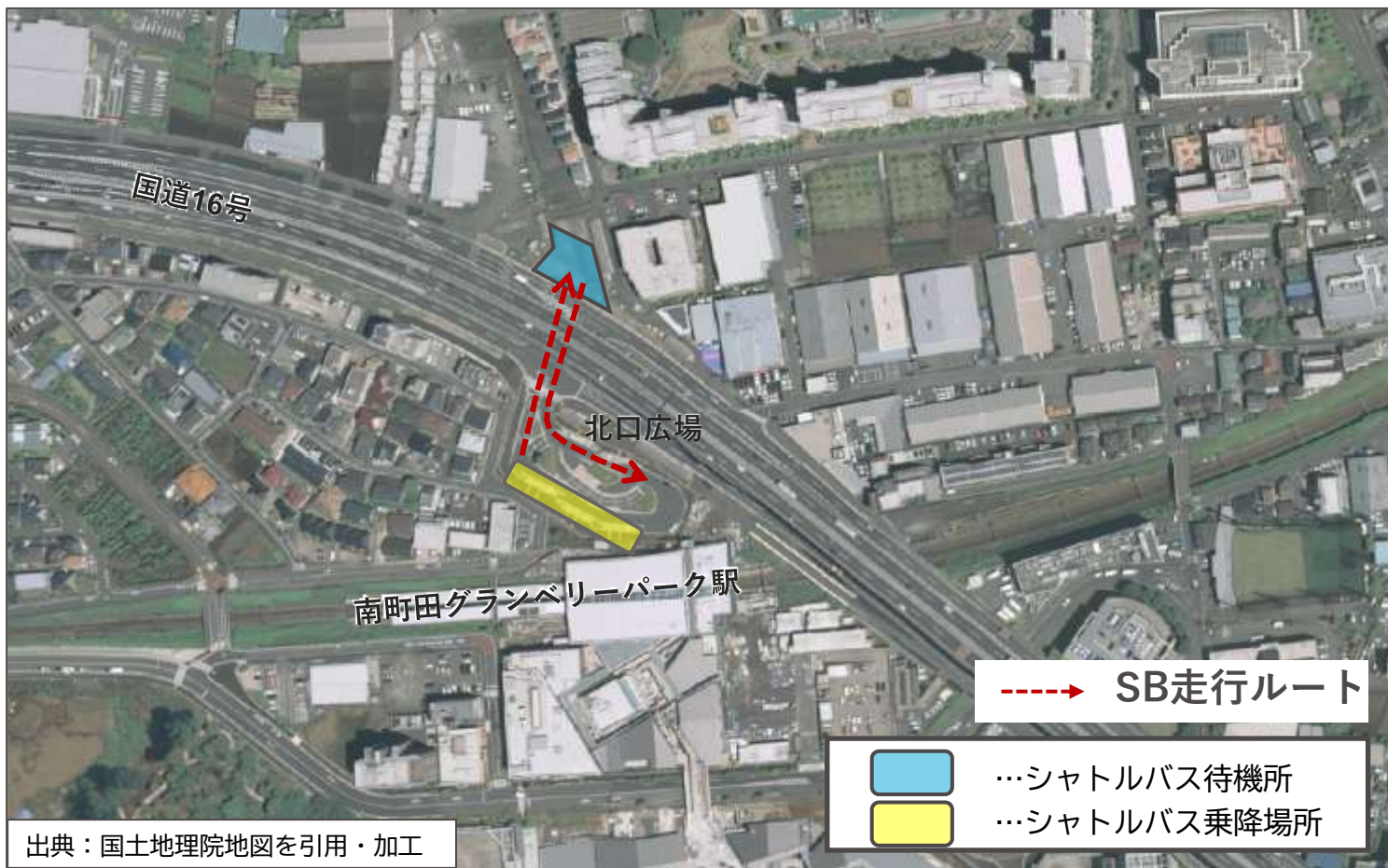
- シャトルバスは最大4バース確保しているが、日程により使用数を変化させて運用
- 例：A日程
午前2バース、午後1バース
- D日程
午前3～4バース、午後1～2バース



【南町田GP駅バス待機場の運用について】

■南町田GP駅バス待機場

○シャトルバスの時間調整や乗務員の休憩所として、下記場所をバス待機場として運用させていただきます。



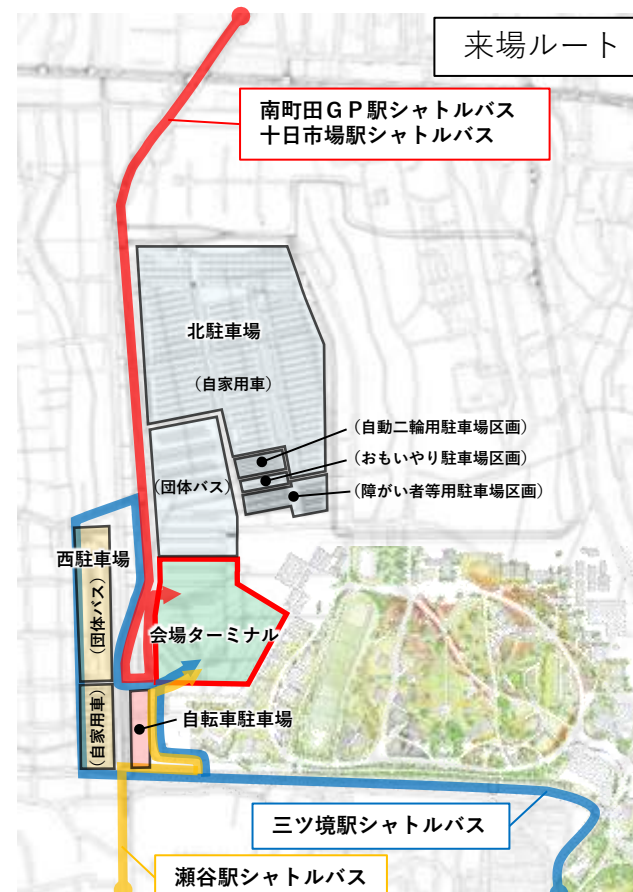
2. 来場者輸送実施計画 第3版 の概要

4. 公共交通機関

- 会場ターミナルには、北方面と南方面からのアクセスルート进行想定し、方面別に2つのバスターミナルを整備する
- 会場ターミナルのメインゲート付近にタクシーターミナルを整備する



▲会場ターミナル内の配置図



※三ツ境駅SBルートについては、現在協議中

▲会場ターミナルへのアクセスルート



※国土地理院地図を引用・加工

2. 来場者輸送実施計画 第3版 の概要

4. 公共交通機関



▲タクシー配車アプリ等乗車ポイント (想定)

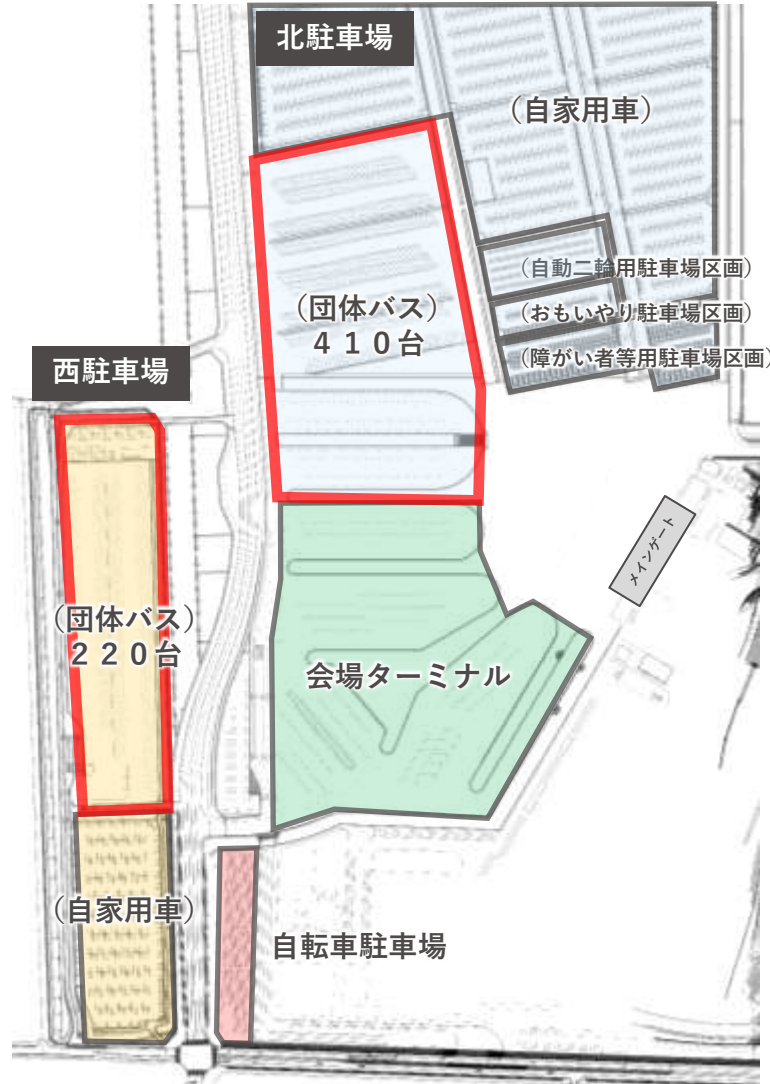
- タクシーターミナルには、複数台同時乗車場所、降車場所、待機場所等を整備するとともに、多くの一般タクシーが会場ターミナルに入構し、導入路が渋滞することがないように対策を関係者間において検討する。
- 会場周辺道路への影響を避けるため、周辺道路上で配車アプリのピン留めができないよう配車アプリ各社と調整を行い、別途配車アプリのピン留め位置を検討する。



▲タクシーターミナル (想定)

2. 来場者輸送実施計画 第3版 の概要

5. 団体バス



▲団体バス駐車場位置図

- 団体バスの駐車区画は、来場ルートを検討し北駐車場と西駐車場を整備し、事前予約制を導入する
- 会場周辺道路上での乗降を禁止するなど、周辺交通への影響やシャトルバスの速達性・定時性にも配慮する



▲団体バス駐車場へのアクセスルート



※国土地理院地図を引用・加工

2. 来場者輸送実施計画 第3版 の概要

6. 自家用車

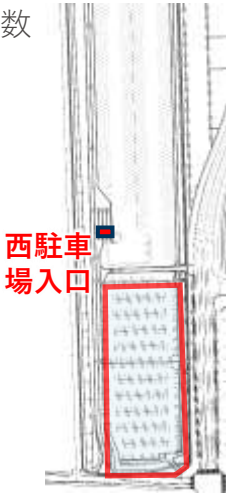
- 自家用車の駐車区画は、来場ルートを検討し北駐車場と西駐車場を整備し、事前予約制を導入する
- 会場ゲートに近い北駐車場には、障がい者等用駐車区画を整備する
- 予約時に、来場する方面別に駐車場入口ゲートの位置や主要道路からの推奨ルートを案内する

■ 駐車場台数

駐車場区画	会場駐車場			自動二輪車
	一般車	障がい者等用※	おもいやり※	
北側	約5,690台	約200台	約110台	約1,000台
西側	約540台	—	—	—

※障がい者等用駐車場区画のサイズ・台数
・4.6m×9m区画：約30台
・3.5m×6m区画：約170台

その他、障がい者に限らず移動に配慮が必要な人（高齢者・妊産婦・けが人等）も利用できる「おもいやり駐車場」を整備



▲自家用車駐車場位置図



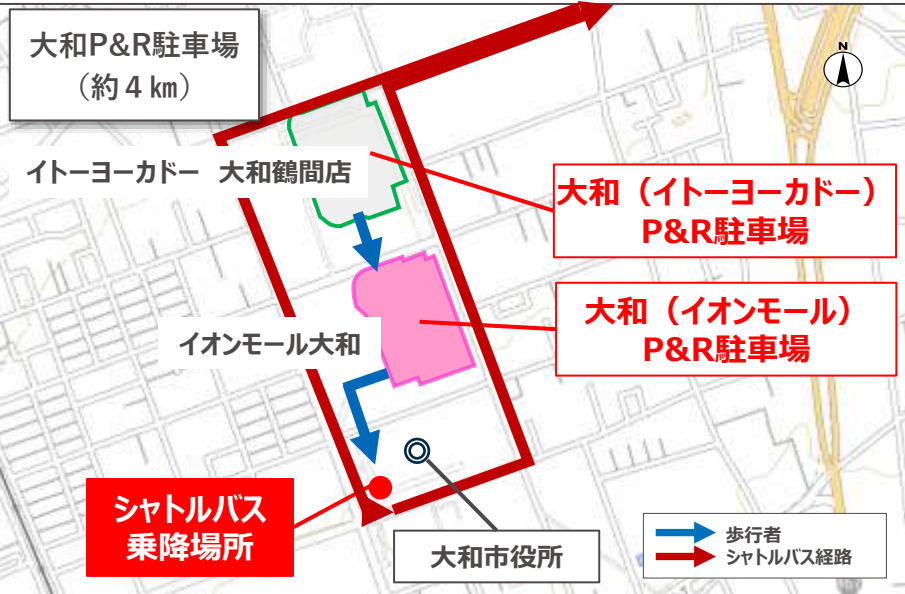
▲自家用車推奨ルート

※国土地理院地図を引用・加工

2. 来場者輸送実施計画 第3版 の概要

6. 自家用車

- 繁忙期にはP&R駐車場を用意し会場までシャトルバスを運行する
- P&R駐車場は、事前予約制とする





2. 来場者輸送実施計画 第3版 の概要

6. 自家用車

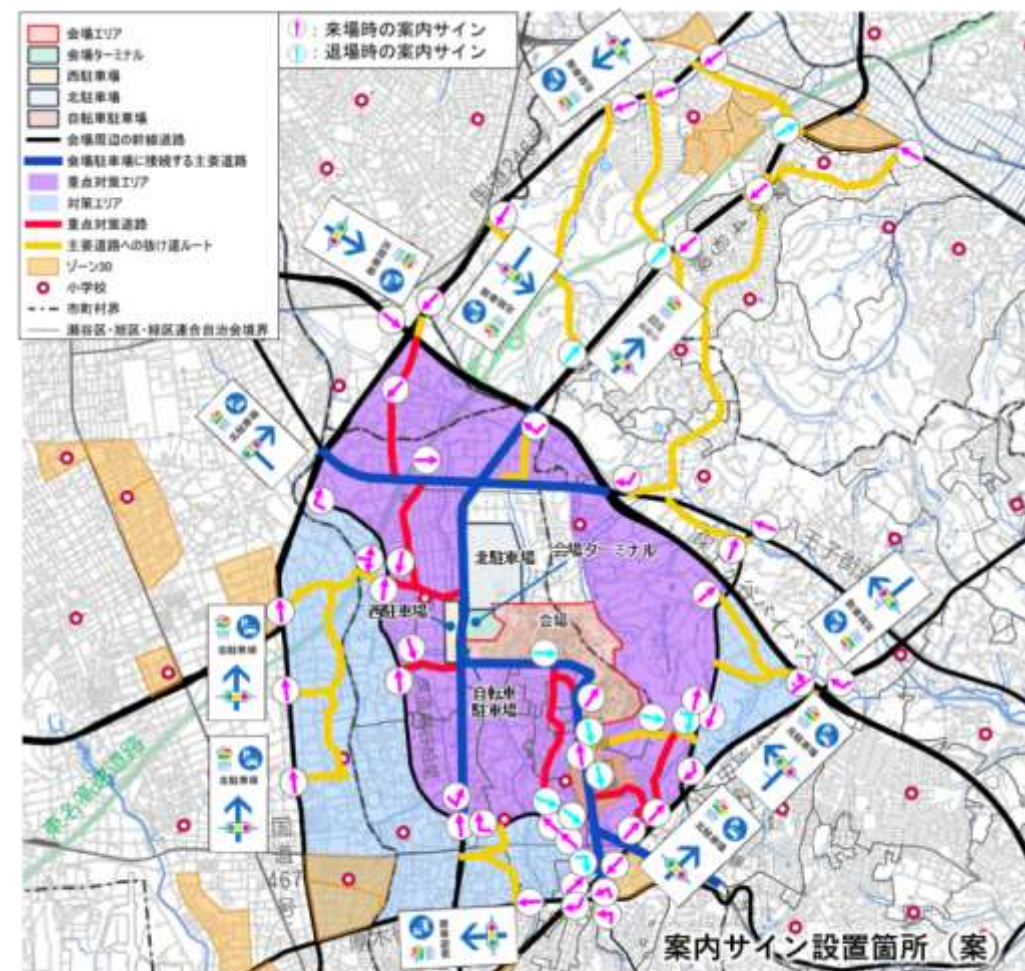
○周辺環境への配慮や安全性の確保を目的に、生活道路への流入を抑制するためのハード対策やソフト対策を検討し、必要な対策を講じる

■生活道路流入対策

- ・推奨ルートの周知・利用徹底
- ・案内サインの設置
- ・誘導員の設置
- ・カーナビや地図アプリなどに協力依頼



▲案内サインによる誘導



▲案内サインの設置による流入抑制（想定）

※国土地理院地図を引用・加工



【生活道路流入対策について】

■南町田GP駅周辺 拡大図



↑ : 来場時の案内サイン
↑ : 退場時の案内サイン

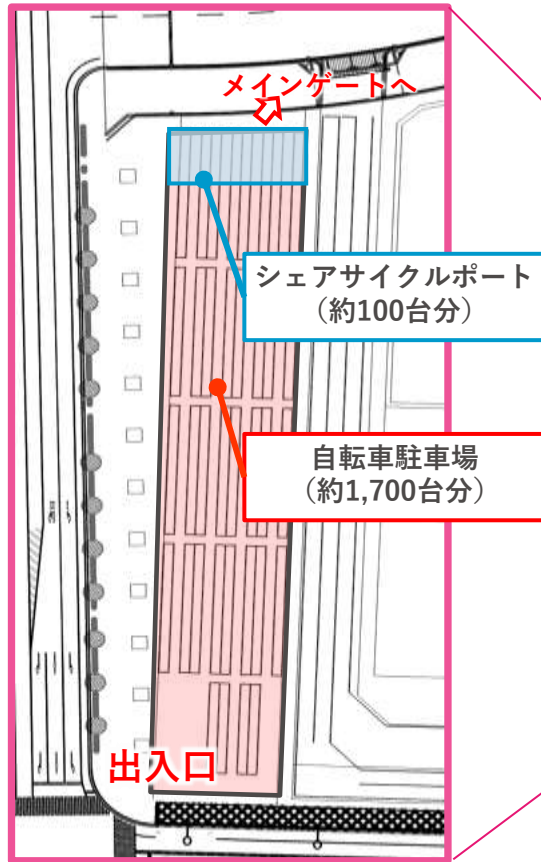
— 会場周辺の幹線道路
— 会場駐車場に接続する主要道路
■ 重点対策エリア
■ 対策エリア
— 重点対策道路
— 主要道路への抜け道ルート
■ ゾーン30
○ 小学校
- - - 市町村界

2. 来場者輸送実施計画 第3版 の概要

7. 自転車

- 会場までの自転車・徒歩来場の推奨ルートを設定する
- 案内看板や誘導員を配置するなど、安全性の確保と適切な誘導を行う

■自転車推奨ルート



▲自転車駐車場



AA'断面



BB'断面



CC'断面



DD'断面



EE'断面

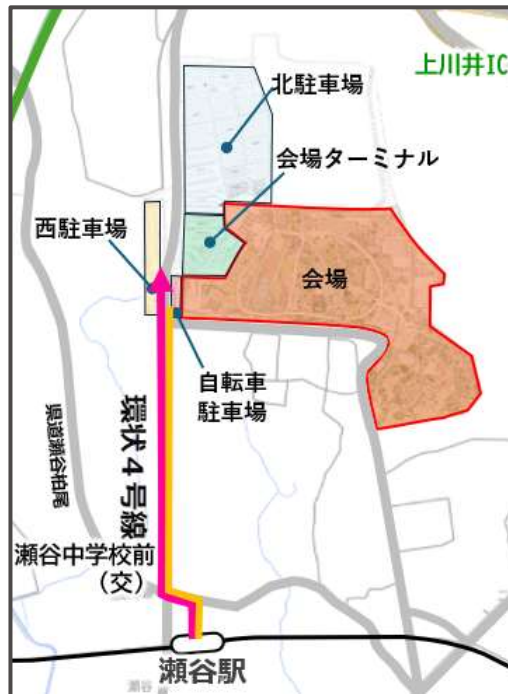


2. 来場者輸送実施計画 第3版 の概要

8. 徒歩

- 会場周辺から会場までの徒歩での推奨ルートを設定する
- 会場周辺には、案内看板や誘導員を配置するなど、安全性の確保と適切な誘導を行う

■徒歩推奨ルート



凡例

← 徒歩（推奨ルート） 〓 装飾区間

※国土地理院地図を引用・加工

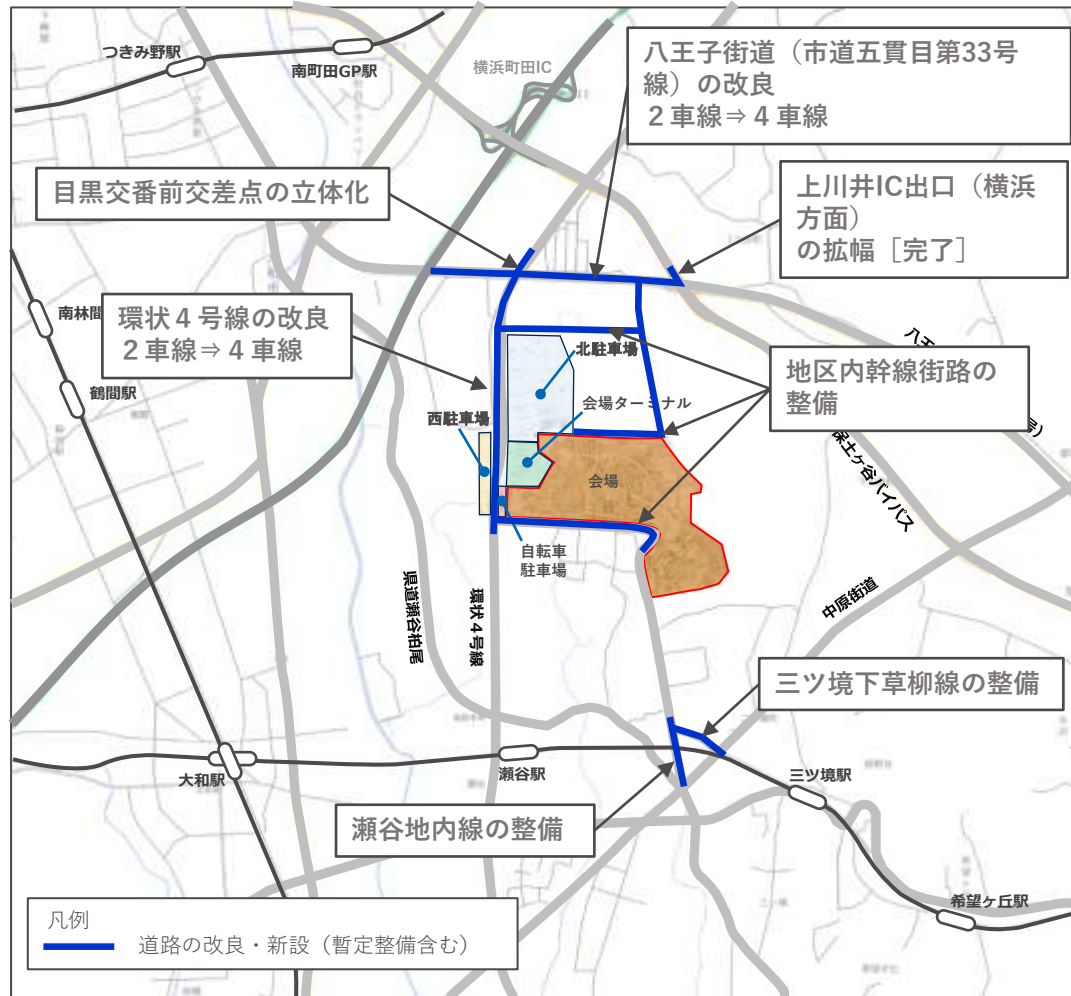
GREEN×EXPO2027
期間中の装飾イメージ▶



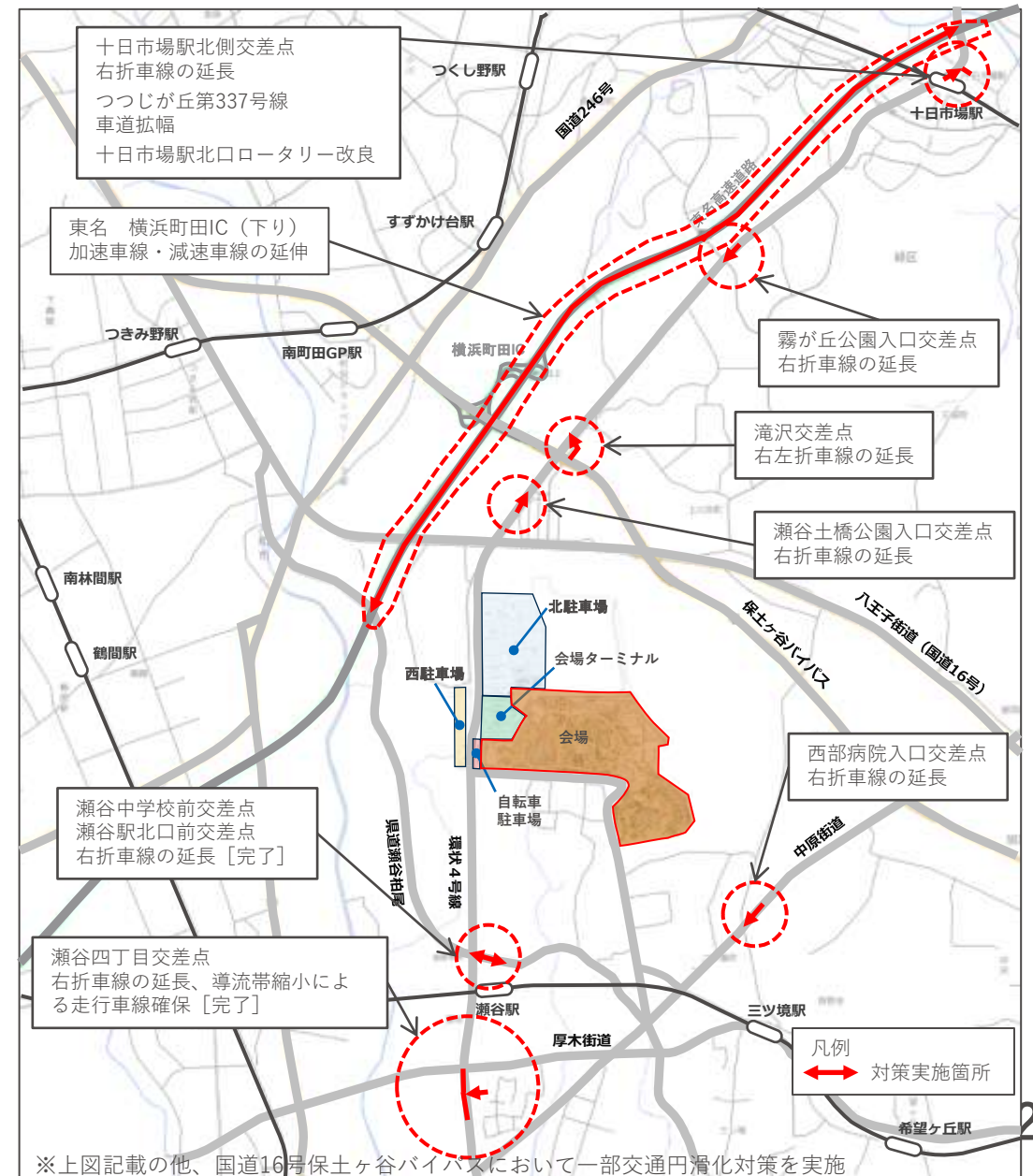
2. 来場者輸送実施計画 第3版 の概要

9. 輸送供給拡大対策

○会場周辺道路における、交通容量拡大等の交通円滑化対策を実施する



※国土地理院地図を引用・加工



※上図記載の他、国道16号保土ヶ谷バイパスにおいて一部交通円滑化対策を実施

10. 輸送円滑化対策

○需要平準化対策

- ・来場者の集中を緩和するために、シャトルバス及び会場駐車場に事前予約制を導入することによる、平準化対策を検討する
- ・退場時についても、イベント終了時間の調整などを実施し、交通の分散化を図る。
- ・シャトルバスへの大型手荷物の持ち込みについては、車内等における混雑の原因になる可能性があるため、鉄道事業者等と調整し対策を行う。

○情報発信による混雑緩和

- ・来場者が円滑に入退場できるよう、移動経路や手段などの基本的な情報をはじめ、交通状況や運行状況などの混雑緩和に向けた情報を速やかに発信する。

○アクセシビリティ対応

- ・様々な交通手段によりGREEN×EXPO 2027を訪れるすべての人々が安全で快適に会場まで移動できる環境の実現を目指す。

- 一般交通を対象とした交通行動変容を促す取組として、交通需要マネジメント（TDM）を実施する。
- 発着交通が多いエリア・地域に対し、重点的にTDMへの協力を呼びかける
- 特に協力を呼びかける期間を「GW」「お盆」「会期終盤」とし、閉幕までの残り2週間は更に強く呼びかける期間とする

A diagram showing a green car on a platform scale. A blue arrow points from the car down to the scale, indicating the force exerted by the car.

・路上停車・駐車 の低減

▲呼びかけ期間

1 2. その他検討・対応が必要な課題

○雑踏等に備えた警備誘導

- ・ 雑踏災害に注意が必要な箇所について対策の検討を行う
- ・ 会場ターミナル入口など移動手段が輻輳する箇所について適切な誘導ができるよう対策を行う
- ・ 開場直後、閉場直前の移動も雑踏等が予測されるため、適切に警備誘導を行う

○鉄道輸送障害時における対応

- ・ 鉄道路線で輸送障害が発生した際、駅シャトルバスの振替や運休等も含めた運行方法の変更やターミナル内や会場内に留まること含め徒歩やタクシー等の代替手段など、来場者の案内方法を検討する

○災害・事故発生時における対応

- ・ 災害・事故発生時の対応は、関係機関と連携し体制など検討する

○夏季の暑さ対策

- ・ 会場ターミナル及び4 駅シャトルバス乗降場所においては、日除け施設など暑さ対策を検討する

○開催期間中の体制について

- ・ 開催期間中の円滑な来場者輸送を実現するため、交通輸送本部を設置する
- ・ 開催中、関係機関と連携して迅速かつ横断的な対応が行える体制を構築する

